

梅鶯仏教壮年会報

第156号
2019年
4月21日

梅鶯仏壯総会開催

三月三十日開催の平成三十年度総会で、本年度の行事予定が決定されました。

平成三十一年度行事予定

5月26日(日) 例会(17時)
6月1日(土) 法輪寺永代経法要
7月28日(日) 例会(17時)
9月20日(金) 親睦旅行
11月21日(土) 報恩講
12月9日(土) 除夜会(11時)
1月21日(土) 例会(17時)
3月28日(土) 総会・役員会

法味

闇の世に
闇とも知らず 迷へるを
弥陀の光りに
遇うぞうれしき ≪光明攝取≫

*闇は闇自身で破られない
無碍の光りに照らされて
安心の日暮らしの道

法輪寺前住職隆法遺作

(Q)「帰依すべきは仏であり、神々は帰依の対象ではない」の意

味を説明願います。

は村全体の行事として祭事をさ
れており、ある程度の参加は仕
方ないと思うが。

(A)「帰依とは「頼りにする」
「まかせろ」という意味です。阿
彌陀さまは私のいのちの行く末を
「すべてまかせよ」と仰るのであ
り、その他に「まかせろ」対象は
ないということ。仏教は「仏
さまの教え」であるとともに、私
が「仏に成る教え」でもあります
が、神さまの世界に「神に成る教
え」はありません。

(A)「親鸞聖人は「神」を帰依
の対象ではないと戒められてい
ますが、「あなずつてはならな
い」とも示されています。私た
ちの自然の恵みの「象徴」とし
て大切にすることは良いことで
はないでしょうか。また「村の
鎮守の神さま」は、地域連携・
地域文化継承の場所として大切
だと思えますが、私のいのちの
根本問題を尋ねるお寺(浄土真
宗)とは別のとらえ方が必要で
しょう。

(Q)「仏さまには感謝をし、神
さまにはお願いをする」と聞き
ましたが。

(A)「ご質問にある「願い事」が
欲望の延長にあるものなら、仏
に對しても神に對しても間違いで
しょう。上手くいけばさらに欲が
出ますし、上手くいかなければ
「神も仏もあるものか」と愚痴が
出ます。いずれにしても「煩惱」
の世界です。煩惱の根本問題を解
決するのが仏教であり、それを約
束して下さる阿彌陀さまに報恩感
謝する世界が浄土真宗です。

(Q)「神さまを粗末にすることは
できないので、人間の思いを超え
たものとして、大切にすることは
つてもいいのでは? また、神社
粹)

(A)「神様に何を伺おうとされ
ているのでしょうか? 縁起の世
界からいえば、有効活用するた
めにはその論理的な努力(専門
家の相談等)こそが必要であ
り、その努力を神の前で誓うと
いうようなことはあっても、結
果を神さまに委ねることはでき
ないでしょう。

(坂田組連研参加者からの質問抜
粋)

いことばかり話をしている
は、聞く方も疲れてくると

○お説教と日本の話芸

釈徹心さんという本派の僧侶で大阪の相愛大学の教授をなされてる方がおられます。

その釈先生さんによりまして、もともと仏教における

あるところに日蓮宗と浄土宗のお寺がありまして、その住職同士の仲が大変悪かったのです。以下次号

平成30年度総会住職話より

世界を見渡しますと、現在でも戦争が絶えません。その多くが宗教戦争と呼ばれる、宗教同士の対立から来るものです。ところどころが仏教では宗教で争い合ったというものは、これまで歴史的にはありません。やはり仏教は縁起というものの考え方から、あらゆるものを受け入れることが出来るということ、争いごとが起きにくいのだと考えられます。とはいえ、宗派同士のちよつとした小競り合いや、いざこざといったものは結構ありました。特に日蓮宗の日蓮上人という方は、南無阿弥陀仏の教えは生易しすぎるということで、かなり否定的だったため、浄土宗や浄土真宗に対して非常に攻撃的だったのです。実はこれが笑いのネタになつてしまふのです。